

山家悠紀夫『景気とは何だろうか』岩波新書 2005 年

第1章 景気はなぜ波を打つか

・問題提起

「市場経済にあって景気の良し悪しを決める根本のものは供給と需要との関係である。供給が需要を下回れば、供給側は供給を増やすことができ、そのことによって収益も増えるから景気は良くなる。逆に供給が需要を上回れば、供給側は供給を減らさざるをえず、収益も減って景気は悪くなる。市場経済は需給関係を軸に動いている、とっていい。

そこで供給と需要との関係だが、まず供給について考えると、市場経済における供給は次の二つの大きな特徴をもつ。一つは、供給の多くは、注文を受けてのものではなく、『これだけ需要されるだろう』という供給者の予想（期待）に基づいて供給される、ということである」（P35）とあるが、なぜ注文を受けてから作って供給するというやり方をしないのか。

選んだ理由

「供給が需要を上回れば、供給側は供給を減らさざるをえず、収益も減って景気は悪くなる」（P35）と書いてあり、供給者の期待に基づいて供給されるやり方は景気が悪くなると思うから。

【討論】

A 見込み生産では短期間での大量生産が可能で、コストが少なく、過剰生産が起きても小売店による価格設定である程度の需給調整が可能だから。

B 受注生産だと、生活必需品が素早く簡単に手に入れないのと、1つあたりの生産コストが大量生産する時よりも大きくなり、効率が悪いから。

C 受注生産だと日用品がすぐ手に入らず、需要者の希望する量に合わないし、時間もコストもかかってしまうから。

D コストがかかってしまう受注生産よりも、大量生産することで安価にでき、市場の価格競争も相まって利益を得ようとする見込み生産の方が総合的に見たときに利益があるから。